



同協会の指導の下、子どもたちは楽しそうにシャトルを打ちました

バドミントン・キャラバン2018岩手

12月15日 [釜石商工高校]

(公財)日本バドミントン協会が本年度から始めた事業で、バドミントンの普及と指導者の育成を図るため、5年間で全国47都道府県を巡回します。4カ所目となる岩手は、釜石で開催され、子どもから大人まで約150人が参加しました。2004年アテネオリンピックにシングルスで出場した田中美保さんの講演や筑波大学の学生などによる模範試合の披露を皮切りに、初心者向けの教室やバドミントンをしている小中学生向けの教室、指導者講習会が行われました。初めてラケットを握った子どもは「楽しかった。もっとやりたい」と目を輝かせました。

岩手大学地域連携フォーラム in 釜石

12月16日 [釜石市民ホールTETTO]

次代・業種を越えて取り組む釜石市の地方創生をテーマに開催されました。水産システム学コースの説明の他、釜石高校の生徒がSSH（スーパーサイエンスハイスクール）で研究した内容を発表。また、連携事例として、釜石はまゆり酵母の活用の可能性などが紹介されました。岩手大学と釜石市は平成13年に相互友好協力協定を締結し、さまざまな分野で連携を図ってきました。今後は、水産研究や学生との交流などさらなる連携協力で期待が膨らみます。



「釜石での研究と学生生活」を紹介する岩手大学大学院生の大場由貴さん



来場者からは今後の研究へのアドバイスも

釜石高校 虎舞研究発表会

12月22日 [釜石情報交流センター]

釜石高校はSSHとして、生徒がさまざまなテーマで探究活動（ゼミ活動）を行っています。その中で虎舞の起源について研究したグループが、全国高校生歴史フォーラムで優秀校に選出され、昨年11月に開催された優秀校5校による発表会で最高賞となる奈良県知事賞を受賞。この日は、最高賞を受賞した研究発表を聞きに約20人が集まり、虎舞の歴史など生徒の発表に耳を傾けました。



サンタと一緒にストリートラグビー。自然と笑みがこぼれます

サンタが100人やってきた！2018

12月23日 [大町広場]

東日本大震災後に始まったこの事業も、今回で8回目となりました。大町広場には、全国各地から約150人のサンタが集まり、遠くは九州からの参加者も。サンタは市内3カ所と大槌町3カ所に分かれてプレゼントを渡したり、地域の皆さんと交流を深めました。NPO法人遠野まごころネット理事長の白澤良一さんは「子どもたちには夢を、大人たちには生きる希望を伝えたい。心の復興に役立つことができれば」と思いを語りました。



貝殻への色塗りも練習！

第2回かまいし絆会議～未来への第一歩～

12月26日 [釜石中学校]

市内小中学校から代表30人が集まり開催された同会議。この日は、ホタテ貝やアカザラ貝の貝殻約5,000枚を使用した縦2.5m、横12mのモザイクアートのデザインを発表しました。大漁旗をイメージしたデザインで、貝殻への色塗りを各学校で分担して完成させ、ラグビーワールドカップの会場となる釜石鶴住居復興スタジアムに飾られる予定です。また、これまでの支援や応援への感謝を伝えるために、各学校で集めた「想いのメッセージ」がもとなる歌『ありがとうの手紙# Thank You From KAMAISHI』の発表と練習も行われ、参加者は真剣な表情で声を合わせ歌いました。



岩手大、岩手県立大などの学生らで構成される管弦楽団員82人が出演しました

岩手大学管弦楽団第58回定期演奏会

12月1日 [釜石市民ホールTETTO]

岩手大学管弦楽団は、例年、盛岡市内での定期演奏会を主としていましたが、同大と市が相互友好協力協定を結んだ縁で、今回の公演が実現。岩手大学学長はあいさつで「盛岡以外での演奏は活動を広げることになる。楽しい音楽で釜石の皆さんを元気づけることができれば」と願いました。観客は、市内では珍しいオーケストラの演奏に聞き入り「素晴らしい演奏だった。機会があればまた来たい」と次回公演に期待を寄せました。

一夢探しプロジェクト 集まれ中学生！気軽に楽しく話そうよ

12月2日 [釜石市民ホールTETTO]

自身の経験から中学生が進路を考える機会を作りたいと、釜石高校2年の高橋奈那さんが、中学生から大学生までの学生と社会人が対話するトークイベントを開催。復興支援を続ける聖学院大学が地元の三陸ひとつなぎ自然学校らと行っている「コミュニティサービスラーニング事業」に高橋さんが参加し企画しました。「将来の夢」「将来の不安」などの質問は学生、「進路の決め方」「働き方」などの質問は社会人が答えて、社会人から学生に体験談を交えた具体的なアドバイスとエールが送られました。

※「コミュニティサービスラーニング事業」は、地元の高校生が地域の課題解決に取り組むプログラムのこと



学生と社会人が向かい合って、相手を変えながら質問に答えて行くトークフォークダンスという形式で46人が交流



「また次も参加したい」と終始笑顔の参加者

ともすカフェ

12月5日 [鶴住居地区生活応援センター]

認知症の人やその家族、地域の人などが気軽に集まることのできる憩いの場として、ともすカフェ（認知症カフェ）が開催されました。昨年度から地域住民、介護関係者、行政が話し合いを重ね、実現したものです。参加のルールは2つ。人の話をじっくり聞くこと。話を否定しないこと。参加者は、お茶を飲みながらのおしゃべりや簡単なレクリエーションで、楽しいひと時を過ごしました。次回は1月24日に三峯の杜で開催する予定です。

第2回釜石市防災市民憲章フォーラム

～防災市民憲章を市民に広げていくために～

12月8日 [チームスマイル・釜石PIT]

釜石市防災市民憲章（3月11日制定予定）を広く周知し、市民生活の中でどう生かしていくかを考えるフォーラムを、釜石市防災市民憲章制定市民会議が開催。これまでの経過の説明と全文の朗読を行った後、市民会議の顧問で、市の防災・危機管理アドバイザーを務める齋藤徳美さんを司会に、元釜石東中教諭の森本晋也さん、釜石市防災会議委員の平野因さん、桜美林大学4年の小松野麻実さん（釜石市出身）が、防災市民憲章の意義や今後の活用について意見を交わしました。最後は、釜石高校2年の洞口留伊さんが「未来の命を守るため、今後は私たちが語り継ぐ番。一人でも多くの人に発信していきたい」と力強く誓いました。



生活の中で生かされてこそ制定する意義があると、参加者と確認し合いました



ベートーベンの交響曲第9番を高らかに歌い上げました

第41回「かまいしの第九」演奏会

12月9日 [釜石市民ホールTETTO]

1978年からスタートし41回目の公演となった「かまいしの第九」。約190人の演奏者が「歓喜の歌」を響かせました。最初のステージでは唐丹中全校生徒35人も出演。オーケストラに合わせて「郷愁歌」と「勝利の行進」の合唱を披露し、集まった約500人の観客へさわやかな歌声を届けました。また、公演の最後には客席も歌詞カードを手に声を合わせました。